

# 2007年度総括及び2008年度の方針

特定非営利活動法人

日本ソーシャルワーカー協会会長

鈴木 五郎

2008/5/18

## [ 社会福祉情勢 ]

1. 社会問題の深刻化。貧富の格差の拡大、非正規雇用の拡大、生活保護世帯の増加、自殺者が1998年以降は毎年3万人以上、世界でワースト9位の自殺率、殺人事件の半数以上が家族内殺人、いじめや不登校、30 - 40代の引きこもりなど。
2. 後期高齢者保険の実施、診療報酬制度の改正、勤務医の減少、救急医療問題。
3. 社会福祉の人手確保の困難、背景としての社会福祉事業の経営悪化・低賃金、大学・専門学校などの志願者激減と統廃合、社会福祉の質の確保。
4. 対策として厚生労働省による「社会福祉士及び介護福祉士法」改正、実習担当職員の研修、  
文部科学省による、スクールSWの配置  
「福祉人材確保重点期間(仮称)」設定によるPR、  
アジアからの介護職員の導入。  
ソーシャルケア協議会による国民集会(仮称)の準備、  
IFSWによる国際SWデいの日本における開催、

## [ 総括および方針 ]

1. 19年秋の国際セミナーにおいて、国際委員会の岩崎委員長はじめ委員が力を発揮した。  
20年度は、EUの取り組みを国内へ紹介する(9月のセミナー)
2. 会報が充実した内容で定期発行され、会員とのパイプとして大切な役割を發揮。
3. 懸案であった協会のホームページが改善された。
4. 新春交流セミナーが、大阪で開催され、充実した内容で高く評価された。20年度も継続して開催する。
5. 提言委員会の作業が、内外から評価されているので、今後も一層力を入れる。
6. 協会の財政は、会員の減少にもかかわらず、家賃の半減化、人件費の減少により、当面はなんとか赤字決算をまぬがれた。しかし、今後とも厳しい状況にあるので、会員の確保につとめることが課題。